

総合戦略を振り返って II. 移住・定住対策

数値目標の達成状況

目標：社会減の抑制… △71.6人 → △35.8人
(H24～H26の3か年平均) (H29～R1の3か年平均)
 達成状況：△79.3人 → △81.6人 → △54.0人 → △41.0人
(H25～H27の3か年平均) (H26～H28の3か年平均) (H27～H29の3か年平均) (H28～H30の3か年平均)

① 定住促進用空き家改修事業

▶事業内容

懸案である空き家を体験型事業の実施や移住希望者等に貸し出すための住宅として整備し、移住・定住者の確保に繋げる。「移住者提案型リフォーム」については、移住者によるデザイン検討から入居までをニコニコ動画等のメディアを通じて、全国に発信していく。

▶これまでの取り組み (H30年度の実績)

活用件数
 ・移住者提案型リフォーム 2件(9人) など

今後の方針・改善点

活用件数
 ・町提案型リフォーム 1件
 情報発信
 ・YouTubeによる情報発信
 ★YouTubeのアップ回数が0回だが、お金がかからず、時間とアイデアがあればできるのでぜひ検討してほしい。

③ 情報発信強化事業

▶事業内容

ウェブサイトやSNSを有効活用するとともに、移住促進パンフレットやプロモーション映像等を製作することで、白神山地や日本海などの自然の豊かさや暮らしやすさなどを効果的に情報発信し、町内への移住・定住を促進する。

▶これまでの取り組み (H30年度の実績)

・全国移住ナビの充実
 (アクセス状況 全国112位 県内1位)

今後の方針・改善点

・Facebookによる発信
 ・全国移住ナビの充実
 ・YouTubeによる発信

④ 移住促進イベント事業

▶事業内容

定住支援体制の充実、自然環境の豊かさなどの強みを移住促進イベント等を通じて積極的にPRし、知名度を高めることにより、東京圏等からの移住を促進する。

▶これまでの取り組み (H30年度の実績)

参加イベント
 ○東北U・Iターン大相談会
 ○県主催移住相談会 など

今後の方針・改善点

参加イベント(令和元年度)
 ○東北U・Iターン大相談会
 ○県主催移住相談会
 ○県北合同移住相談会 等
 ★移住する目的があるかが大事。移住した後も地域に根付くよう、手を引いて地域に連れていくことがいいと思う。

⑥ 定住奨励金事業

▶事業内容

U・Iターン者に対し、奨励金等を交付することにより定住の促進を図り、もって地域の活性化に寄与する。(対象者)

町外で5年以上生活したUターン者、及びIターン者。ただし、在学期間除く。

▶これまでの取り組み (H30年度の実績)

○定住奨励金
 単身(150,000円交付)9世帯(9人)
 世帯(300,000円交付)8世帯(19人)
 ○住宅取得等助成金 3世帯
 補助対象経費×1/2(上限:500,000円)

今後の方針・改善点

・定住奨励金事業はH30年度までに移住した方で終了
 ・交付実績はあるが、若い大人を増やす方向性を考えると、誘因にならないと考えられるため。
 ★金融機関では、移住者向けローンがある。利子補給している自治体もあるので検討してほしい。

総合戦略を振り返って I. 仕事づくりのための産業振興

特集

まち・ひと・しごと
 創生総合戦略

数値目標の達成状況

目標：新規雇用者数…令和元年度までに1000人
 達成状況：H27年度27人、H28年度0人、H29年度22人、H30年度14人
 (計63人)

① 菌床しいたけ産業基盤強化事業

▶事業内容

ホダ生産ラインの改良、拡張により、ホダ生産量を従来の200万個から300万個に増産し、生産希望者に安定的に供給することで、『しいたけ産業』の基盤強化を促進するとともに、町内に新たな雇用の場を創出する

▶これまでの取り組み (H30年度の実績)

H29年度に「おがる八峰しいたけプロジェクト」で整備した栽培棟で新規就農者2名が栽培研修を開始した。また、生産拡大のため既存生産者において国や県の補助事業を活用して、栽培棟2棟増設した。

今後の方針・改善点

昨年度に新規就農した2名の栽培研修が終了するため、新たな研修者の募集を行うとともに、生産拡大に取組む既存生産者と栽培研修終了後の新規就農者の施設整備について、国や県の補助事業のほか、補助残についてもJAと協力し、生産者の負担減につながるための支援を行う。

④ 創業塾等開催事業

▶事業内容

創業、起業を検討している方を対象に、事業を開始するための心構え、ビジネスプラン(事業計画)作成研修、融資制度や創業事例の紹介など、実際の創業に役立つ講座「創業塾」等を開催する。

▶これまでの取り組み (H30年度の実績)

白神八峰商工会の呼びかけにより、平成30年10月30日に異業種交流会が実施された。参加者は、漁業、農業、商工業に携わる15人を始め、観光協会、商工会青年部、町、商工会を含め29人。意見交換では、6次産業化によるビジネスチャンスや異業種による連携やマッチングなどについて、活発な議論が行われた。

今後の方針・改善点

新たなビジネスチャンスの発掘とそれに係る課題解決を応援するため、町では八峰町地域産業活性化専門家招聘事業を創設し、講師派遣にかかる費用について助成する制度を創設するとともに、創業や起業に関する情報提供について商工会等と連携しながら取り組む。
 ★商工会で異業種交流会を実施しており、新しい特産品などはできていないが、今後も継続していきたい。

② 生薬栽培推進事業

▶事業内容

農業経営基盤の強化や安定収入の確保、耕作放棄地対策の一つとして、生薬栽培の普及を推進する。

▶これまでの取り組み (H30年度の実績)

・出荷規格外のキキョウを使用した薬膳メニュー開発事業に取り組んだ。町内飲食店等5事業者で実績があり、町の新たな観光資源として好評を得ている。
 ・(株)龍角散からの寄附金を活用し、掘り取り機等の備品購入や作業場を建設した。
 ・農家栽培 カミツレ…6農家、約14a収穫乾燥品で約50kgを出荷。キキョウ…5農家、約32a収穫。乾燥品で約22kgを出荷。

今後の方針・改善点

・試験栽培の結果から、町の栽培方針が確立しつつあるため、栽培農家に示しながら単収の増大につながるよう指導していく。新規生産者の募集や説明会を行い、栽培農家と作付面積の拡大に努める。
 ・販売先の拡大を図るため、カミツレ、キキョウ以外の品目についても、試験栽培を行い、企業側と交渉していく。

⑦ 滞在型観光推進事業

▶事業内容

地域関係団体等と連携・協働して、自然、特産品など競争力のある地域資源を活用した体験型事業の充実と施設の整備等により「滞在型観光地」への転換と交流人口の増加を図る。

▶これまでの取り組み (H30年度の実績)

・通過型観光からの脱却とともに、好調な外国人観光客の誘客を促進するため、能代市山本郡の広域市町村圏の4市町の協働事業として、インバウンド対策にむけた地域連携DMO組織「一般社団法人秋田白神ツーリズム」を立ち上げ、当エリアの広域観光事業の推進を図った。

今後の方針・改善点

地元観光事業者と町、観光協会、商工会等関係団体の連携を深めながら、(一社)秋田白神ツーリズムを主体としたインバウンド対応を促進させ、国内外からの旅行者のニーズを把握しつつ、能代山本地区を始め、青森県深浦町や鱈ヶ沢町、さらには、男鹿市や大館市を中心としたDMOとの協力体制の構築を目指しながら、広域観光連携の強化を図る。
 ★海外でも認知度の高い龍角散の名前を使えば、町をPRする大きな力になるためガイドラインを作成してほしい。